

感染予防へ啓発

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、県立広島大（広島市南区）は、スマートフォン向けの健康管理アプリを独自に開発し、学内で運用を始めた。下宿生活も多い学生の健康状態を把握するとともに、学生一人一人に感染予防の意識を高めてもらう。

（田中美千子）

健康管理学内アプリ

コロナ対策 県立広島大独自開発



アプリは同大の学生なら誰でも無料で使え、利用は任意。毎日、体温とせきや頭痛、嗅覚異常などの症状の有無を入力し、異常があれば「健康状態に問題はありません」とのメッセージが表示される。4日連続で同じ症状が続くなどした場合、自宅待機や保健所への相談、大学への連絡を促す「注意」や「警告」が通知される。

入力データはインターネットのクラウドに蓄積され、学生は自身が過去に打ち込んだ内容を見返すことができる。大学側は、健康上の注意が必要な学生を確認し、必要に応じてサポートする。

同大では広島、三原、庄原の3キャンパスに計約2600人の学生が通う。前期の授業は原則オンラインで実施。近く始まる後期からは対面授業も随時取り入れる予定でいる。アプリは同大地域基盤研究機構長の市村匠教授（計算知能）と

鎌田真特命講師（同）が開発し、今月初めから運用を始めた。

市村教授は「毎日の利用を通じて学生が『コロナにうつらない、うつさない』を意識し、自身の体調に注意する習慣を身に付けてほしい」と話している。アプリは学外への有償での提供も検討している。地域基盤研究機構 ☎082-0934-1111（2F）0934-11平日のみ。